

# しいのき



哲学堂唯物園にある狸の燈籠

## 中野の狸

名誉館長 三 隅 治 雄

大正年間（1912～26）の中野は、あちこちの家や叢くさむらに狸や狐が棲み付いて、人間に化けては悪さをしたとの話がよく聞かれたそうです。狸は中野では貉むしなともいいますが、狸と狐は化け方が対照的で、諺に「狸は入道、狐は女」といって、狸は男、狐は女に化けることが多かったようです。狸は外見ズングリして四肢が短く、狐のような美人になれません。化けても大入道などになって人を驚かすのがもつぱらで、化かしたつもりが化かされる、悪さをしてもすぐばれるといったドヂ男で、せいぜい「狸寝入り」程度の小悪です。中野には、餌をくれた家人に牡丹餅で恩返しをした昔話もあり、こちらが誠意を示せば、相手も善意で応える。そんな狸の心の揺れはいかにも人間的で、その俗性を微苦笑をまじえて表現したのが狸の像なのでしょう。

# 文化財よもやま話

井上円了とコックリさん

コックリさんが日本で最初に流行したのは、明治20（1887）年頃から大正時代にかけてのことです。その後、何度も流行を繰り返しています。

コックリさんとは、神意判断、占い法の一つで、狐狗狸さんとも書きます。長さ30cmほどの三本の棒を束ねて机の上に置き、その上に盆や飯櫃の蓋、風呂敷などをのせます。一般的には三人で行い、片手を盆の上に軽く乗せ、「コックリさん、コックリさん、おいでください」などと唱えます。装置が動き出すとコックリさんが降りてきたとみなされます。「はい」の場合は右に傾き、「いいえ」の場合は左に傾くというような約束を交わし、紛失した物や恋愛、運勢などについてさまざまな質問を行います。（『日本民俗大辞典』吉川弘文館1999年）

日本で初めてコックリさんが流行したときに、これを研究したのが井上円了です。井上円了は、近代を代表する哲学者で東洋大学・哲学堂の創立者です。円了は「妖怪学」の創始者でもあり、人々から親しみを込めて「妖怪博士」とも呼ばれていました。その円了が最初に取り組んだテーマが「コックリさん」です。

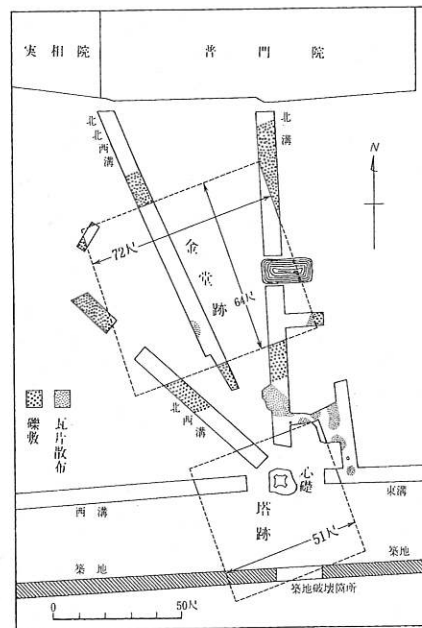
円了は多くの資料を集め、コックリさんの実態解明に乗り出しました。その研究成果の一つである『妖怪玄談』（1887年 哲学書院）を読むと、当時流行していた「コックリさん」の様子がよく分かります。例えば、宮城県のある村では、竹3本を麻縄でまとめ、竹の中に「狐」、「天狗」「狸」と書いた札を入れます。竹の口を火で暖め、その上に塗盆を載せ、風呂敷でこれを覆い、女兒3人が左手を載せます。その周囲では、太鼓を打ったり、いろいろ囃し立てたりします。また、円了自身も自宅で学生たちとコックリさんの実験を行なったと記述しています。

当館では10月4日（火）より11月27日（日）まで企画展示「井上円了の民具コレクション」を開催します。円了が伊豆で採集したコックリさんをはじめ、貴重な資料の数々をお楽しみください。

# 大地に眠る歴史

昔の人は遺跡をどう見たか(12)

前号で、現在の法隆寺が、焼失したあとの建物であるという説、創建そのままであるという説を紹介しました。この論争を解決するためには、現在の伽藍の南東にある若草伽藍の正体を探るのが近道ということになります。若草伽藍は、心礎という塔の中心部の柱を支える礎石がポツンとあることが江戸時代から知られており、何か建物があったらしい場所でしたが、その内容はまったく不明でした。ここでこの若草伽藍が重要な遺跡としてクローズアップされたのです。昭和14年（1939）



国史大辞典より（一部改変）

に歴史考古学者石田茂作を責任者として発掘調査が実施され、建物の基壇となる版築（土をつき固めてつくる建物の基盤）が南北方向に二か所確認されました。北側が横長の長方形、南側が正方形であることから、金堂と塔の跡ということが判明したのです。縦方向に金堂と塔を配置するのは四天王寺に認められるもので四天王寺式と呼ばれるものです。この寺も聖徳太子が建てたものとして知られていることから、四天王寺—若草伽藍—聖徳太子が線につながるものが明らかにされたのです。また、金堂と塔が横に並ぶ法隆寺西院とは異なる伽藍配置であることも注目されることとなりました。配置の違いは創建の時期が違うことを示すと考えられますが、これだけではまだ、若草伽藍と法隆寺西院のどちらが先に建てられたものかはわかりません。ここで、出土遺物が威力を発揮することとなります。（つづく）



## 文化財ウィーク特集

# 古建築保存の取り組み

秋は昔から芸術の秋とも呼ばれ、各地で展覧会や催し物が開かれ、教養を高める季節でもあります。文化財についても、文化財ウィークと称して、都区市町村で公開事業が展開するのもこの季節です。今回は、文化財保護の中から、中野区が今までに取り組んだ、古建造物の補修や保存について紹介いたします。

## 山崎家茶室・書院の補修について

資料館敷地内の庭園に残されている、山崎家茶室・書院は、区内でも数少ない江戸時代の建造物です。近年、老朽化が進み、区教育委員会は、その維持保存の重要性から平成16年度に補修を行いました。



## 山崎家茶室・書院とは

山崎家茶室・書院は江古田村丸山組名主であった山崎家の屋敷内の離れに天保12年（1841）に建てられたものです。領主などを迎えて接待を行なうための迎賓館としての役割をもったものでした。中野など江戸近郊の村々の名主層は、江戸への地の利のよいこともあり武士階級ばかりでなく当時の文化人などとも交流をもっていました。そういった人々を迎える場所でもあったのです。茶室は六畳、書院は八畳の座敷と六畳の次の間で構成されています。茶室は書院よりも約10cmほど高くなっており、こちらが上席であることがわかります。茶室には炉は切られておらず、茶湯は風炉で点てられたものです。風炉も幾つか残されています。書院の座敷と次の間の間の板襖には、13人の唐子が遊ぶ構図が、その他の建具にも鶴や雀などが描かれています。これらや、茶道具などは毎年秋に、資料館で公開しています。

こういった役割をもった建造物が残されているのは都内でも希で、当時の農村の文化レベルを伝える貴重な文化遺産です。



## 今までの経緯と今回の修理

昭和58年（1983）、山崎氏から寄贈を受けた茶室・書院は10余年を経過したころ、屋根瓦のひび割れやズレ部分から雨漏りがひどくなったため、平成10年（1998）11月から建物全体を鉄骨造りの覆い屋根（テント）で保護する処置を行ってきました。しかし、茶室・書院の老朽化が一段と進んできたため、平成15年（2003）8月に構造（破損状況）調査を行い、その結果、腐葉土による地面の盛り上がり、柱や土台の腐食による建物本体の歪みなどが生じ、茶室・書院が傾いていることが分かりました。このため、①基礎はコンクリート盤（ベタ基礎）の上に土台石を据え直す。②土台は新しい部材に取換え、建物全体を嵩上げする。③屋根は鉄板製の<sup>かさ</sup>もので葺き直す。という方針に基づいて、平成17年（2005）3月に修理を行いました。

### 基礎の修理

まず、建物本体をジャッキで持上げました。この工程と元の位置に降ろす工程が最も困難な作業で、油圧ジャッキを使い時間をかけて少しずつ持上げ6基の井桁架台<sup>いげたかだい</sup>の上に建物本体をのせました。この工程は、僅かな操作ミスによって余分な応力が柱や壁などに加わり、建物の内壁が崩壊してしまう危険性が高く、水平の保持と振動を与えぬよう細心の注意を払いました。つぎに土台石を掘り起こし、コンクリート盤の基礎を打ちました。そのうえに既存の土台石を元の位置に戻し、土台は新しい部材にすべて取換え、建物の歪みを修正しながら慎重に降ろしました。



建物本体をジャッキで持上げ井桁架台にのせた様子

### 土台・柱の修理

まず、土台の取換えと柱の修理を行いました。土台は、当初の位置より25cm高くし、耐久性を向上させるとともに、床下の換気が有効に行えるようにしました。なお、新たに設置したコンクリート盤の基礎と土台は、建物の変形や移動などに対処するため、アンカー

ボルトで固定しました。



コンクリート盤の基礎と土台を固定した様子

### 雨漏り修理など

まず、屋根瓦をすべて取り除き、黒色の鉄板で全面葺き替えました。屋根材は、当初は瓦葺きではなかったこともあり、耐震性を高めるため瓦に比べて軽い鉄板葺きとしました。外壁は、南一西側は下見板<sup>したみいた</sup>の張替えを行い、北一東側は波板鉄板張り<sup>なみだ</sup>としました。



瓦をすべて撤去したのち鉄板葺きに張替えた様子



## 哲学堂公園内古建造物の補修について

哲学堂公園は、哲学を修養する目的で、哲学・妖怪学の権威でもあった井上円了によってつくられた公園です。中野区では、この公園の自然環境と古建造物について昭和59年（1984）に区の文化財に指定しました。その後、昭和60年（1985）から63年（1988）にかけて、三学亭・絶対城・六賢台・四聖堂・宇宙館・哲理門の6棟の古建造物について補修を行いました。



### 三学亭

三学亭は、明治42年（1909）に建てられたもので、神道・儒教・仏教三学から、平田篤胤・林羅山・釈擬然をまつています。

補修は、基礎の下の土が流出して柱が浮いた状態である点を改善して、まわりの水はけを良くするように改良しました。



### 六賢台

六賢台は明治42年（1909）の建物で、日本・インド・中国の哲学者をまつています。補修は、外側の板材の腐食を取り替え、柱と基礎の間にずれが生じ、建物の上半と下半が全体にねじれた状態になっている点を修理しました。



### 絶対城

絶対城は、大正4年（1915）に建てられた、井上円了の蔵書を公開するために作られた図書館の役割をする建物です。

補修は、鉄板で葺かれた屋根が腐食して雨水が浸入し、基礎の大谷石が風化している2点の改善を対象としました。



### 四聖堂

四聖堂は明治37年（1904）に建てられたもので、6棟の中で最古の建物です。孔子・釈迦・ソクラテス・カントをまつています。

表側の<sup>しみにと</sup>蔀戸の破損が著しく、錆びた<sup>ちようがけい</sup>蝶番などもあり、この部分の補修に重点を置きました。





### 宇宙館

宇宙館は大正2年（1913）の建立で、哲学が宇宙の真理を研究する学問であることから、名付けられたものです。中央には聖徳太子像が安置されています。当時は講義室として利用されていました。

補修は、雨水による柱下位の傷みと、床の間周辺の破損部分を中心に行いました。



### 哲理門

この門は、哲学堂公園の入口の門としてなじみの深いものです。明治42年（1909）に建てられたものです。この門は礎石が埋没して、そのために全体にゆがみが生じていました。また、風雨にさらされていたため扉の金具が完全に錆びついていました。補修は全体をジャッキで上げて行いました。

## 旧山政醤油レンガ塀移築復元

江戸末期から、青梅街道中野宿を中心に勃興した地場産業の中で、山政醤油はその象徴でした。中央二丁目に広大な工場を有し、その周りにはフランス積工法で造られたレンガ塀が囲んでいました。この塀は明治32年（1899）に着工された都内でも稀少な明治時代の建物でその景観は区のまちづくり百選にも選ばれるものでした。しかし、老朽化による安全性の問題等もあり、現所有者の財務省によって平成元年に取り壊しが決定され、区教育委員会はこの塀の重要性をかんがみ、現地に10m分について、移築復元してモニュメントとすることにしました。復元に際しては現物のレンガを用いて、フランス積工法はもとより、特徴的な美しいデザイン意匠を中に組み込む形で計画され、平成4年（1992）に移築復元は完了しました。

現在は、財務省宿舎内の児童公園の中にありますので、その優美な姿はいつでも見ることができます。（資料館の玄関手前の掲示板はこのレンガでつくられたものです。）



# 古文書つづり

## 病める彼らと 病む我ら

5月に歴史講座を開き、その3回目に講師を招いてお話いただきました。演題は「病める人びとの近代」で、19世紀後半～20世紀前半の病への接し方を中心にした興味の尽きないお話でした。例えばあくまで個人レベルの“養生”から、個人の健康は個人だけの問題ではないという“衛生”思想への転換が起ったこと、また当初の“避病”から“療養”そして“健康”へと病気の対処法が変わっていったことなど、さすがに詳しい方の講演会は聴きどころ満載です。

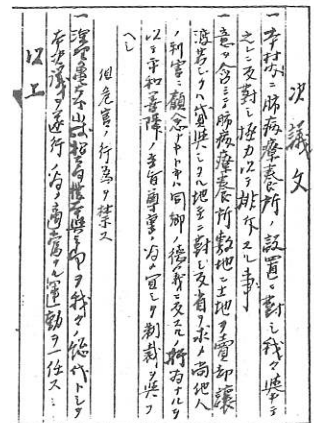
このように、演題のとおり幕末からアジア・太平洋戦争期まで日本社会が病気や病人にどういった姿勢で臨んだのかという内容だったのですが、お話の最後に大きな疑問を投げかけられました。

右は結核療養所設立反対決議です。急に提示された建設計画で地元は大慌てになり、中止要求と共に土地売却者へ事情説明を求めます。もし売却

したことを反省しない場合は報復も辞さずという強い姿勢であり、計画発表が周辺に与えた衝撃がただならぬものだったことを物語ります。また、病院開設後も門前を通る時には鼻や口をふさいで走り去った人もいたという話が残っており、どれだけ忌避されていたのかを見て取れるでしょう。こうした病気・病人・病院に対する感情は、講演でも言及されたのですが当時それほど珍しいものではありませんでした。しかし誤解や無策で始まり広まる特定の病気に対する差別や偏見は、その対象と程度こそ違えど今も昔も変わらず存在します。

そこで疑問が生じたのです。講演の題にある「病める人びと」とは、一体誰のことなのでしょう？

▶1916(大正5)年、中野療養所設立反対決議から決議部分。前書と連印は省略。



## 中野往来

### 整地碑

松が丘2-36 江古田公園西側

区内を東西に流れる妙正寺川と江古田川が合流する地点には土地区画整理によって作られた区立江古田公園があります。この公園は、妙正寺川を挟んで両岸に広がり、橋で結ばれています。一方は広場で、一方は丘陵地の斜面部分を生かして作られた木々の茂った散策路になっています。

明治42年に出された「耕地整理法」と、大正8年の「都市計画法」による土地区画整理は、区内では4カ所行なわれています。そのうちの一つに江古田土地区画整理組合がありました。堀野良之助氏、山崎喜作氏等の発起で昭和8年に設立されました。組合長を務めた堀野氏は、この頃の江古田の様子を著書『江古田のつれづれ』で次のように記しています。「江古田は、昭和八年に区画整理組合で整地工事をするまでは、道路がせまくて、やっと荷車が通れる位であって、砂利道は少なく、道らしい道はなかった。ほとんどの道は、農地の

耕作道で路面が悪く、両側には並木と雑草、すすきが生い茂って、道とは名ばかりの田畑の間道であった。その頃は田畑の中に点々と屋敷林に囲まれた草葺屋根の農家があって、武蔵野の名残をとどめていた。」日清、日露戦争頃から、東京の人口は急速に増え、特に関東大震災後は、東京近郊の市街地化が進む一方でした。こうした流れを受けて、都市化に備えて、道路・水路を整備し、河川を改修し、橋を架け、公園完備し、住宅地として整備しました。この一大事業を今に伝えるのが、公園の西側に建つ整地碑です。



題字は画家小杉放庵による



# 事業報告

## 各種事業経過

2005年4月～9月

| 事業名                | 内 容   | 期間   |
|--------------------|---|--|
| 企 画 展              | 「寄贈品展」<br>「考古学へのいざない—最新発掘資料から中野を探る—」  | 4/29～6/18<br>7/19～8/31   |
| 所蔵名品展              | 「おひなさま展」<br>「江戸明治絵画の粹—区登録文化財の軸物絵画の公開—」<br>「染付の美—中野区に伝わる古伊万里を展示—」  | 3/8～4/10<br>4/20～6/30<br>7/6～9/30  |
| ミ ニ 展              | 「端午の節句」<br>「七夕」   | 4/19～5/12<br>6/24～7/10   |
| 歴史講座<br>「江古田の森の歴史」 | 「江古田の森は遺跡の宝庫」 講師：比田井克仁（当館主査）<br>「中野病院 設立のころ」 講師：石村篤史（当館専門研究員）<br>「病める人びとの近代」 講師：石井人也氏（町田市立自由民権資料館学芸担当）<br>「現地見学会」 講師：館員   | 5/7<br>5/14<br>5/21<br>5/28  |
| 青少年講座              | 「伝統技術を学ぼう—七夕馬作り—」 講師：吉田正秀氏  | 7/2  |
| 夏休み事業              | 火おこし 7/22・8/3・26<br>音楽鑑賞 7/28・8/4・18<br>勾玉作り 7/30<br>竹トンボ作り 8/6<br>お手玉作り 8/10<br>洗濯板で洗濯 8/19<br>貝の根付作り 8/24   | 伝統遊び 7/23<br>張り子作り 7/29<br>姉様人形作り 8/5<br>ビデオ鑑賞 8/9・16<br>障子張り 8/11<br>クイズ大会 8/20 |
| 古文書講座              | 講師：笠原 綾氏（日本放送協会学園専任講師）  | 9/10・17・24   |
| 埋蔵文化財<br>対 応       | 松が丘一丁目11番民有地試掘調査（国庫補助金対象事業）<br>松が丘二丁目20番民有地試掘調査<br>弥生町五丁目4番区有地試掘調査<br>江古田一丁目3番区有地試掘調査<br>松が丘二丁目21番民有地立会調査<br>本町六丁目16番民有地立会調査<br>本町六丁目16番民有地試掘調査（国庫補助金対象事業）<br>鷺宮四丁目19番民有地立会調査 | 4/16<br>5/28<br>6/2<br>6/8・9・10・11<br>6/23<br>6/29<br>7/14<br>8/26               |
| そ の 他              | 小学校3・4・6学年総合学習見学 14校<br>博物館実習（4大学4名）  | 4月～9月<br>8/30～9/11   |

## 入館状況

2004年3月～2005年9月（延べ180日間）（人）

| 一 般    | 団 体 | 学校教育 | 合 計    |
|--------|-----|------|--------|
| 16,990 | 82  | 988  | 18,060 |

発行年月日 2005年10月1日

編集・発行  山崎記念  
中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4  
☎ 03 (3319) 9221 FAX 03 (3319) 9119